AFICAT ニュースレター(日本第 10 号)

2023 年 5 月 11 日発行

AFICAT 運営チームは 2023 年 2 月にケニアで 2 回目の現地活動を行いました。第 10 号では、その様子をご紹介します。今回の現地活動では、既に現地に進出済みの KiliMOL㈱さま、㈱フジタさまの事業を視察したり、㈱ケツト科学研究所さまのセミナー開催を支援したりしました。また、今後、現地での本邦製品の実証・展示拠点となりうる現地の大学や農業畜産開発省の技術センターなども訪問し、協力への意向を確認することができました。

ケニア:KiliMOL(株)さまの精米ビジネスモデルの実証事業・中古農機販売

KiliMOL㈱さま(以下 KiliMOL)は㈱商船三井さまの100%出資会社で、ケニアのナイロビ、ムエア、アヘロに拠点を置いて活動しています。現在、㈱唐沢農機サービスさま(以下唐沢農機)と連携し、農林水産省補助事業「令和 4 年度アフリカ等の企業コンソーシアムによるフードバリューチェーン構築実証事業」の一環として小規模精米機のビジネスモデルの実証を実施しています。KiliMOL は 2022 年 12 月にカンリウ工業㈱さまの籾摺り精米機と石抜き機をケニア有数の稲作地帯である Mwea と西部の村落部に小規模精米機(籾摺り能力の高いインペラ式を採用しています)を設置し、小規模精米ビジネスの収益性を検証し始めています。

カンリウ製の籾摺り精米機に石抜き機を組み込んだ精米作業の様子

今回 AFICAT 運営チームは、ケニア有数の稲作地帯である Mwea に設置された精米機のうち 2 カ所を視察しました。まだ検証段階ですが、農家は自分の村に籾摺り精米機を導入することに、大変期待している様子でした。その理由として以下の発言がありました。

【農家の声】

多くの農家が幹線道路で営業している商業精米所に籾を販売している。一方で農村に精米機を設置することで、農家が籾を精米し、白米にして販売することができるため収益性を高めることができる。最終的には生計向上につながる。

ナイロビのレストランで提供されているコシヒカリを使ったお寿司

この精米所でユニークな取り組みとして、コシヒカリを扱っていることが挙げられます。かつてコシヒカリの良質種子が導入され、それが現地に継承されました。そのコシヒカリはナイロビで日本食レストラン「KAI -The Sushi Bar-」を経営している福居恭平氏と現地の契約農家により、二人三脚で栽培されています。収穫されたコメは自身のレストランで提供したり、他の飲食店向けに販売したりしているということです。カンリウ製の精米機を活用することで、必要な量のコメを、長粒米など、他のコメと混ざることなく精米することができるということです。福居氏は小売り向けの販売も検討しているそうです。このように KiliMOL は本邦製品の導入・販売により、現地の精米技術の向上、農家の生計向上、コメバリューチェーンの改善を目指しています。

AFICAT ニュースレター(第 10 号) (株)かいはつマネジメント・コンサルティング All rights reserved.

また、KiliMOL は唐沢農機と業務提携し、自社 EC サイト[1]などを通じてケニアの顧客向けに日本の中古農機を販売しています。Mwea 灌漑開発公社(MIAD)の敷地内に事務所スペースを間借りし、農機を展示・販売しています。AFICAT 運営チームは展示されている農機や事務所を視察させていただきました。大山幹雄代表によると評判を聞いて遠方から買いに来る顧客もいるようです。

KiliMOL の Mwea 事務所で展示・販売中の日本の中古農業機械(手前よりヤンマー、三菱製の歩行田植機。続いてクボタ、ヤンマー製のトラクター)

このほかにも KiliMOL は、田植機を重点的に販売するため、肝となる苗床作りから指導をするという計画を立てています。2023 年 2 月には JICA の中小企業・SDGs ビジネス支援事業に KiliMOL と唐沢農機の共同提案事業が採択されました。農村部でも苗床を作れる仕組みを開発し、乗用式・歩行式田植機の普及を通して稲作の生産性向上に、取り組まれる予定です。

ケニア:㈱フジタさまの ジャガイモ貯蔵施設の実証事業

㈱フジタさま(以下フジタ)は、日本でジャガイモ貯蔵施設の建設において多くの実績を有し、高い評価を得ています。2018 年にケニアへ進出し、現在、農村を中心とした事業を展開しようとしています。その取り組みがケニア中部の Nyandarua 郡で生産されるジャガイモの長期貯蔵を可能にする貯蔵庫の建設です。今回の訪問では建設中の貯蔵庫視察と、フジタが連携している現地の協同組合(MUKI Investment Cooperative Society)と意見交換をしました。

貯蔵庫は自然の力(冷涼な気候特性)を活用する、パッシブデザイン構造を採用しています。電気を使わずに夜の冷たい空気で壁を冷やして日中も庫内を 12℃～15℃に保つことができます。日射による熱を内側に入れないよう屋根を二重にしたり、ジャガイモの呼吸で発生する二酸化炭素を喚気するためにサイクロンベンチレーターを取り付けたりするなど、試作を重ねています。

ジャガイモ貯蔵庫の外観(上)、貯蔵庫の内部(下)

連携している現地の協同組合との意見交換では、ジャガイモは地域の主産物であることから貯蔵により流通量をコントロールし、価格を維持することの重要性が主張されました。これにより現地のジャガイモバリューチェーンの改善や、農家の収入向上が期待されます。さらに、協同組合による農業機械のレンタルサービスの可能性についても言及され、個々が協力し地域農業を振興しようとする意気込みを感じました。

[1] https://kilimol.net/collections/stocks-in-kenya

 All rights reserved.

こうしたフジタの取り組みは 2020 年度の JICA の中小企業・SDGs ビジネス支援事業に採択されており、これまで新型コロナの影響もあり開始時期が延期となっていましたが、2023 年中に契約が締結され、JICA 事業として継続される見込みです。

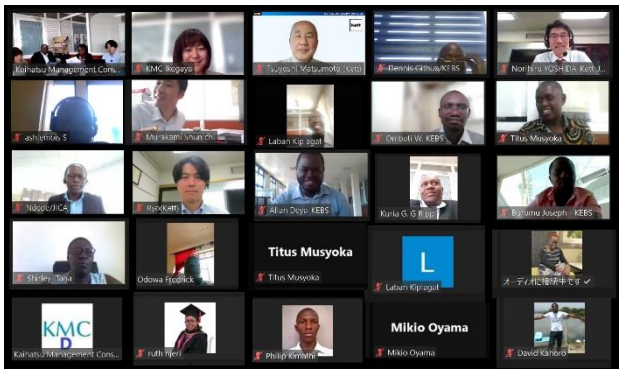
フジタ、現地協同組合、AFICAT 運営チームの意見交換の様子

ケニア：㈱ケツト科学研究所さまセミナー開催

2 月 16 日に、㈱ケツト科学研究所（以下ケツト）の製品紹介と穀物水分管理の重要性を伝えることを目的としたオンラインセミナーをケニアで開催しました。これまで同様のセミナーを AFICAT 対象のうち 4 カ国で実施しています。当日は農業畜産開発省（Ministry of Agriculture and Livestock Development：MoALD）や、穀物などの規格策定、計量制度を管轄するケニア基準局（Kenya Bureau of Standard：KEBS）などの政府機関から、約 40 名が参加しました。

参加者からは水分計による測定値の基準となる規格について、例えば ISO 規格と日本の規格における乾燥温度と乾燥時間の違いに関する質問が挙がりました。またケツト主催による水分計測などに関するトレーニングに参加したいという声もあり、水分を適切に測定しようとする熱心な姿勢が伺えました。研修の最後に農業機械化局のチーフエンジニアは、適切な水分管理について学ぶ今回のトレーニングは国内の食料安全保障の観点からも重要であると強調していました。この背景には、コメのポストハーベストにおける課題として、収穫物の 30～50%が不適切な水分管理のために失われているという状況があります。

また MoALD のコメ担当者は、ケツトが他国で取り組んできたコメ水分計測のトレーサビリティシステムにも関心を示し、セミナー終了後も引き続き情報交換をしていました。今後も AFICAT は、現地政府関係者とケツトとの関係構築を支援しつつ、ケニアにおける適正な穀物の水分管理に貢献してまいります。



オンラインセミナー参加者の様子

ケニア：クボタ製トラクターユーザーの声

Mwea はケニア最大の稲作地域であり、トラクターでの耕うん整地やコンバイン収穫作業を請け負う農業機械サービスプロバイダー（賃耕・賃刈り業者）の活動も盛んです。そこで、今回はクボタ製トラクターユーザーの声をご紹介します。

【クボタトラクターユーザーの声】

国営灌漑公社（National Irrigation Authority）が開催したクボタトラクターのデモンストレーションに参加し、クボタトラクターを購入した。耐久性、エンジン、タイヤの重量が軽い点が優れている。特に耐久性には驚かされる。3 年程度使用しているが消耗部品の交換程度しかない。 L4508 のタイヤの溝の深さ、間隔が水田には適しているため、他のトラクターと比べ運転しやすい。性能の高さを確認し、さらに 2 台購入した。

サービスプロバイダーのトラクターオーナーとオペレーター。後方にあるのはクボタ製トラクターL4508

 All rights reserved.

ケニア：Africa Agri Expo 視察

2 月 8、9 日に Nairobi で開催された農業製品展示会である Africa Agri Expo 2023[2]を視察しました。会場には約 80 の企業・団体・政府機関が出展していましたが、屋内イベントであり機械を展示するスペースがないためか、農業機械の展示はドローンしか見当たりませんでした。代わりに農薬や肥料／植物活性剤などの農業資材を紹介する企業の出展が目立ちました。また、インド系の出展者が多い印象を受けました。その他 ICT と地理的情報システム（GIS）活用を提案する企業も大きなブースで出展していました。農業畜産開発省など政府機関も出展しており、ケニアで農業の情報を収集する場として良い機会と思いました。当日の出展企業に関する情報をご希望の方は AFICAT 運営チームまでご連絡ください。ウェブサイトによれば次回 2024 年の開催は 2 月 7、8 日に予定されています。

イベント会場内の様子

ケニア：本邦製品の実証拠点として ジョモ・ケニヤッタ農工大学の協力を確認

JOMO KENYATTA UNIVERSITY OF AGRICULTURE AND TECHNOLOGY
Setting Trends in Higher Education, Research, Innovation and Entrepreneurship

ジョモ・ケニヤッタ農工大学（Jomo Kenyatta University of Agriculture and Technology：JKUAT）は、ケニアで 5 番目に設立された国立大学で、その名のとおり農学・工学分野に特化した大学として高い評価を得ています。JKUAT は日本政府が長く支援しており、現在も JICA プロジェクト（アフリカ型イノベーション振興 JKUAT/PAU/AU ネットワークプロジェクト）の専門家が派遣され、教鞭を取っています。そのため大学の施設や教授陣の知見を活用して本邦製品の実証・デモンストレーションなどにも取り組んでいます。これまでに㈱和郷（農産物の生産）、㈱教育情報サービス（e-ラーニング）、㈱トベ商事（ペットボトルのリサイクル）といった企業との実証実験の実績がございます。

AFICAT 運営チームは JICA プロジェクトの業務主任の小疇浩氏を訪問し、AFICAT を活用する本邦企業製品の実証試験などの協力を打診したところ、快諾を得ました。具体的には、農機や資材を問わず、実証を希望する製品や対象作物に応じて、適切な専門性を持った教授を紹介し、実証を担当してもらうことが可能とのことです。ケニア国内で定評のある大学で得られた実証データは、現地での製品販売を進める際の有用なデータとなるはずです。ご関心のある企業の方は、まずはぜひ AFICAT チームにご連絡ください。

なお、JKUAT の概要や取り組みについては、第 9 号で紹介した第 4 回 JICA 食と農の協同プラットフォーム（JiPFA）アフリカ農業分科会の小疇氏の発表資料でも詳しく紹介されていますので、合わせてご覧ください。

- 第 4 回 JiPFA アフリカ農業分科会 小疇教授発表資料 https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/jipfa/africa_agri/ve9qi80000005ujs-att/20230125_06.pdf

JKUAT の研究棟の様子

編集後記

アフリカでも有数の経済大国であるケニアでは、既に現地でビジネス展開を進めている本邦企業が沢山いらっしゃいます。現地パートナーを見つけ、エネルギッシュに事業を推進されている様子に私たち AFICAT チームも感銘を受けました。

ケニアでは、JICA 農業機械化アドバイザーがケニア農業畜産開発省へ派遣されていたり、JKUAT で JICA 技術協力プロジェクトが実施中だったりと、AFICAT にも心強いパートナーがたくさんいます。こうした皆様のご協力を得て、本邦農業資機材メーカーのビジネ

[2] https://africa-agriexpo.com/

 （株）かいはつマネジメント・コンサルティング All rights reserved.

ス進出をご支援する体制を整えていきたいと思います。ご関心のある企業の方は、ぜひお問い合わせください。

編集・問合せ
㈱かいはつマネジメント・コンサルティング
小早川・弓削田
Tel: 03-5791-5083　Mail: aficat.team@kmcinc.co.jp

AFICAT HP:
https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/aficat/index.html

※ニュースレターの新規登録・登録解除をご希望の方は上記の宛先までお名前、所属先、メールアドレスをご連絡ください。

※AFICAT のご活用に関するお問い合わせも、上記の宛先までご連絡下さい。

 All rights reserved.